

安全にお使いいただくために

●必ずご使用前に本紙をよく読み、保管してください。●仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。
●本製品の誤った取扱いや改造した場合での事故について、当社はその責任を一切負いません。

事故が起きた際は…

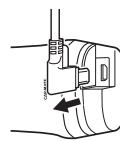
事故発生時に記録された映像データが上書きされないように、下記のいずれかの手順を行うことをおすすめします。

△注意 ◎安全な場所に移動し、エンジンを停止してから行ってください。

●カメラ本体から電源ケーブルを取り外す

事故発生時のデータが上書きされないようにカメラ本体の電源を切れます。

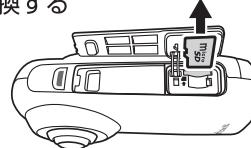
※電源を切った後は録画されません。



●メモリーカードを交換する

万が一に備えて予備のメモリーカードを常備しておくことをおすすめします。

※取出したメモリーカードは取扱いにご注意ください。



本書の注意事項は、そのレベル、内容ごとにマークを設けています。各々の定義(意味)を充分に理解された上で、お取扱いください。

! 誤った取扱いをすると、死亡や重症などを負う可能性が想定されるもの

⚠ 誤った取扱いをすると、傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定されるもの

🚫 誤った取扱いをすると、法律違反となる可能性が想定されるもの

💡 取扱いにおいて知っていると有益な情報

安全上お守りいただきたいこと

! 破損や故障など、異常な状態のまま使用しないこと。発煙、異音、異臭などが発生した場合は、ただちに使用を中止してください。事故や火災の原因となります。

! 行走前に取付状態を確認すること。脱落、落下などにより、ケガや事故の原因となります。

! 動作確認のための急発進や急ブレーキは行わないこと。ケガや事故の原因となります。

! 病院内や航空機内など、使用が禁止されている場所では使用しないこと。ベースメーカー や医療用電気機器などの誤作動の原因となるおそれがあります。

⚠ 電源コードや各端子部のほこりや汚れはよく拭いて取り除いてください。接触不良などによる感電や火災の原因となります。

⚠ 長時間使用しない場合は電源ケーブルをカメラ本体から外してください。車両バッテリーの放電や火災が起きるおそれがあります。

⚠ 本製品は防じん、防滴、防水仕様ではありません。水をかける、濡れた手で操作する、異物を入れるなどの行為は行わないでください。感電や火災、故障の原因となります。

⚠ 本製品は、以下の機器と同じ周波数帯(2.4GHz帯)を使用しています。

① 電子レンジなどの産業・科学・医療用機器など

② 工場の製造ラインなどで使用される移動体識別用の構内無線局(免許を要する無線局)

③ 特定小電力無線局(免許を要しない無線局)

本製品を使用する際には、上記の機器や無線局と電波干渉するおそれがあるため、以下の事項に注意してください。

1. 本製品を使用する前に、近くで上記の①～③の製品が運用されていないことを確認してください。

2. 万一、本製品から移動体識別用の構内無線局(②)に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに本製品を停止させてください。

⚠ 本製品内に結露が生じた場合は、使用しないでください。特に低温から高温に移動したときに、結露が発生しやすくなり、故障や発熱の原因となります。

⚠ 本製品を落としたり、強い衝撃を与えないでください。

⚠ 磁石などの磁気を帯びたものを本製品の近くに置かないでください。故障やデータ損傷の原因となります。

⚠ 本製品の穴やすき間にピンや針金などの金属を入れないでください。感電や故障の原因となります。

🚫 運転者は走行中に操作および注視をしないこと。法律で禁止されています。また事故の原因となりますので、絶対に行わないでください。

🚫 本製品は日本、アメリカ、香港でのみ使用が認められています。それ以外の国や地域では法律に抵触するおそれがありますので使用しないでください。

This product is for use only in Japan, USA, and Hong Kong.

🚫 分解や修理、改造は行わないこと。感電や火災、故障の原因となります。

🚫 本製品に貼付けてある技術適合証明ラベルをはがさないこと。ラベルのない製品を使用することは、法律で禁止されています。

取付けについて

💡 ラジオやカーナビなど、他の電化製品と電波干渉する場合があります。電波干渉した場合はカメラ位置や電源ケーブルの配線の取回しを変更してください。

録画について

🚫 記録した映像やデータは、使用方法によっては他人の法的な権利を侵害する可能性があります。

本製品で記録した映像やデータの内容、それによって起因した事項については、当社は一切責任を負いません。

💡 本製品は事故の証拠としての効力およびナンバー や車種、色などの特定を保証するものではありません。

💡 本製品はすべての状況下における録画を保証するものではありません。また、本製品の使用や故障によって生じた損失、および記録された映像やデータの損傷などによる損害については、当社はその責任を一切負いません。あらかじめご了承ください。

💡 録画性能や記録時間などは被写体や周辺環境などに影響され、変動する場合があります。

駐車監視モードについて

⚠ 濡れた手で駐車監視ユニットを触らないこと。感電の原因となります。

⚠ 駐車監視ユニットはd'Action電源供給専用設計です。スマートフォンやタブレット、別売のバッテリーオプション等の充電やUSB機器には使用しないでください。

🚫 コードを傷つける、無理に曲げる、引張る、加工するなどは行わないでください。感電やショートによる発火の原因となります。

💡 付属の駐車監視ユニットは本製品(DC5001DT)専用です。他の機器には接続しないでください。

💡 車両の使用状況や環境などによって車両バッテリーの状態は異なります。バッテリーの状態に合わせて電圧監視機能の設定を変更してください。電圧不足でエンジンがかからない場合は、バッテリーが劣化している可能性がありますので、新品バッテリーへの交換を推奨いたします。

💡 駐車監視モード中、暗い場所など環境によっては録画品質が低下することがあります。

💡 一部の車両では、エンジンを切った後もアクセサリー電源への電源供給が一定時間続きます。その場合、駐車監視モードに切り替わるまで時間がかかります。

💡 駐車監視ユニットの表面温度が高くなる場合がありますが、故障ではありません。

💡 取付けには専門的な知識を必要とします。お買い求めになった販売店や専門的知識のある工場などで行ってください。

💡 駐車監視モードによる車両のバッテリー上がりに関して、当社はその責任を一切負いません。

電源について

⚠ 電源ケーブルを外す際は、必ずコネクタ部分を持って行ってください。電源ケーブルが損傷すると、感電および火災の原因となります。

⚠ DC12V/24Vマイナスアース車以外では使用しないでください。故障の原因となります。

💡 本製品に備わっている4つのモードは、電源供給源を認識することで切り替わります。そのため、市販のUSBケーブルやUSB電源ソケットを使用すると動作しない場合があります。

必ず本製品の付属品またはオプション品を使用してください。

💡 一部の車両では、エンジンを停止してもカーソケットに常時電源が供給されることがあります。その場合は、降車時に電源ケーブルを抜いてください。

💡 本体の電源をONにしてから、録画の開始まで最大約15秒かかります。(ただしカメラ本体が動作温度範囲を超えている場合、さらに時間を要します。)

💡 一部のアイドリングストップ車では、再始動時の電源を確保するため供給電圧が低下することがあります。これにより本製品への電源供給が停止する場合があります。

カメラについて

- ⚠️ ダッシュボードなど温度が急激に上昇する場所に放置しないでください。変形および火災の原因となります。
- ⚠️ 長時間の使用によりカメラ本体が高温になった場合は、直接手で触れないでください。やけどの原因となります。
- ⚠️ 清掃の際、研磨剤入り洗剤、アルコール、有機溶剤入りの洗浄液を使用しないでください。
- ⚠️ レンズに直射日光を長時間当てないでください。故障の原因となります。
- ⚠️ 本製品は電子部品の特性上、使用条件によりカメラの表面および内部温度が高くなる場合があります。
- ⚠️ 動作温度範囲を超えた場合、製品保護のため動作を停止します。動作が停止した場合は、カメラの温度を下げてから使用を再開してください。
- ⚠️ レンズ表面に泥や砂、指紋などの汚れが付着したときは、付属のレンズクロスまたは、繊維くずの出ない乾いたきれいな布で拭取ってください。

メモリーカードについて

- ⚠️ 本製品には、専用のメモリーカード(DC3／4／5)を使用してください。専用のメモリーカード以外を使用すると、データの損失や記録できない場合があります。
- ⚠️ 長時間の使用によりメモリーカードが高温になった場合は、直接手で触れないでください。やけどの原因となります。
- ⚠️ 油がついた手や濡れた手でメモリーカードを触らないでください。損傷、故障の原因となります。
- ⚠️ データのバックアップ、フォーマット、システムリセットおよび動作中は、絶対にメモリーカードを取出さないでください。データやメモリーカードが損傷し、使用できなくなるおそれがあります。
- ⚠️ メモリーカードを落としたり強い衝撃を与えないでください。破損およびデータが損失するおそれがあります。
- ⚠️ スロット内に異物を入れたり、端子部分を手で触らないでください。破損、誤動作、故障の原因となります。
- ⚠️ メモリーカードを挿入するときは、必ず正しい向きで力ちと音がするまで差込んでください。無理に挿入するとメモリーカードを破損させる原因となります。
- ⚠️ カメラ本体のアップデート中に本体の電源をOFFにしたり、電源ケーブルやバッテリーパック(別売)を外したりしないでください。故障の原因となります。
- ⚠️ メモリーカードは消耗品であり、書き込み可能回数など製品寿命があります。1日2時間程度使用する場合で約1年半を目安に交換することをお勧めします。
また、使用状況や使用環境により寿命は変化します。
- ⚠️ 以下の場合、メモリーカードをカメラ本体でフォーマットしてください。
 - 新規購入したメモリーカードを使うとき
 - 他のカメラやパソコンなどでフォーマットしたとき
 - 書き込み／読み取り速度が遅くなったと感じたとき
 - カード内のデータを全て消去したいとき
 - カメラから「フォーマットしてください」と音声が流れたとき
- ⚠️ メモリーカードは消耗品です。一定使用期間(回数)が過ぎるとメモリーセクターの一部が損傷されて正常な録画ができなくなることがあります。
- ⚠️ 重要なデータは、必ず他のデバイスにバックアップしてください。メモリーカード上のデータは上書きや消去される場合があります。
- ⚠️ メモリーカードは、清潔な乾燥した涼しい場所で保管してください。

GPSなどについて

- ⚠️ GPSなどの電波が受信できない場所では、自車位置および自車速度を記録することはできません。
- ⚠️ GPSなどの電波は、周囲の状況や地理的要因によって受信しにくい場合や受信できない場合があります。
- ⚠️ GPS衛星は米国国防省によって管理されており、故意に精度が変更されることなどがあります。
- ⚠️ 本製品の近くにGPS機能を持つ製品やVICS受信機などを設置しないでください。それらの機器や本製品が誤作動を起こす可能性があります。
- ⚠️ テレビアンテナの近くで使用すると、テレビ受信感度の低下、ちらつき、ノイズの原因となる可能性があります。
- ⚠️ 周囲に障害となる物を設置しないでください。GPSなどの電波受信に悪影響を及ぼすおそれがあります。
- ⚠️ 電源起動時はGPSなどの電波を受信するまでに時間がかかります。受信環境、気象条件、車両条件、製品位置により数秒から数分かかる場合があります。
- ⚠️ フロントガラスにコーティングなどが施された車両は、GPSなどの電波を受信しにくい場合があります。

その他

- 🚫 記録した映像やデータは、個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示物などの中には、個人として楽しむなどの目的があっても撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。
- 🚫 ステッカーは、保安基準で貼付可能な位置が定められています。フロントガラスや運転席・助手席のサイドガラスには貼付けないでください。また、強粘着のため塗装面への貼付けにはご注意ください。

DC5001DT d'Action360^S

取付けガイド

スマートフォン
専用アプリはこち
ら

iOS



Android

- 必ず使用前に本紙をよく読み、保管してください。
- 仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。
- 本製品の誤った取扱いや改造した場合での事故について、当社はその責任を一切負いません。

5-②. バッテリーコード（黄）を配線する

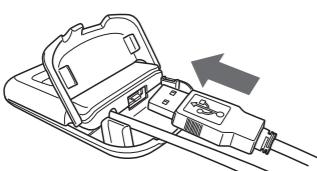
エンジンON/OFFに関わらず常に車両から+12V/+24V電源が供給されるコードへ配線してください。
コード加工についてはP.6をご確認ください。

5-③. アクセサリーコード（青）を配線する

車両のアクセサリーがOFFのときにOV、ONのときに+12V/+24Vになるコードへ配線してください。
コード加工についてはP.6をご確認ください。

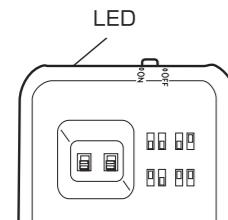
5-④. 電源ケーブルを接続する

駐車監視ユニットのフタを開け、カメラ付属の電源ケーブルのUSBコネクタを差込んだ後、フタを閉じます（下図）。



5-⑤. エンジンをかけ、LED 点灯を確認する

カメラおよび駐車監視ユニットのLEDが点灯することを確認します。



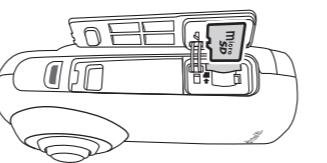
= 5 =

取付手順

<用意するもの>

●本製品のセット内容すべて

付属の microSD カードは、あらかじめカメラに
入れておいてください。

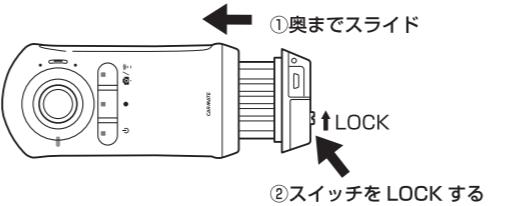


●対応するスマートフォン

あらかじめ専用アプリを
インストールしておいて
ください。

App Store
からダウンロードGoogle Play
で手に入れよう

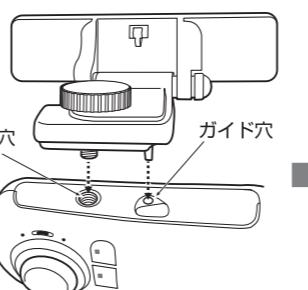
1. キャパシタをセットする



= 2 =

2. マウントを装着する

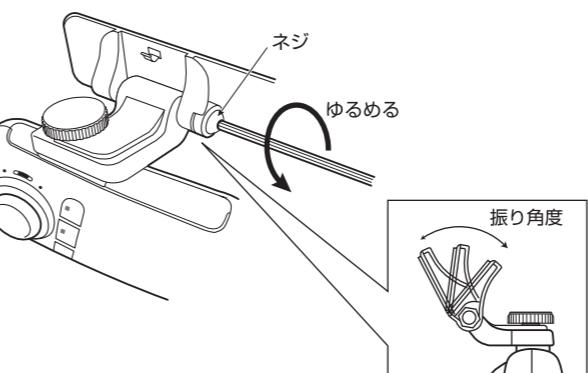
①ネジ穴とガイド穴を合わせる



②ノブを回し、締める



※手順 1 のキャパシタを先にセットしないと、ガイド穴は開きません。
※カメラをマウントから取外す際は、②→①の順で行ってください。

3. 六角レンチを使ってマウントのネジをゆるめ、
振り角度を調整できる状態にする

= 3 =

<コードの加工について>

駐車監視ユニットのバッテリーコードおよびアクセサリーコードは、配線する車両側のコードの太さに応じて加工を行ってください。
※太さの異なるコード同士で配線すると接触不良や断線の原因となります。

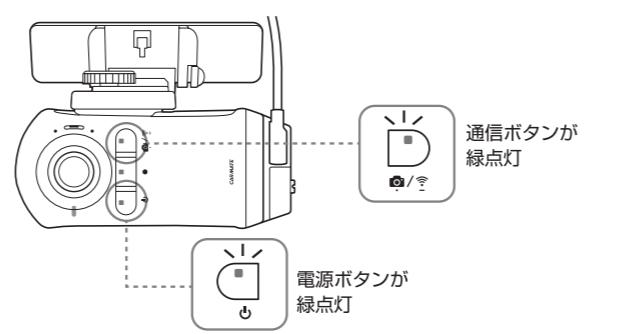
車両側のコードが太い場合 …そのまま接続する



車両側のコードが細い場合 …本製品のコードをニッパーなどで切断し、適したワンタッチコネクターを使用して接続する



6. ボタンと / ボタンが点灯していることを確認する



= 6 =

7. スマートフォンと接続する

7-①. スマートフォンの「Bluetooth」を OFF にする

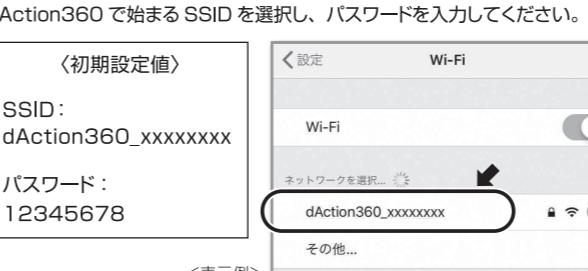


= 4 =

7-②. スマートフォンでカメラを検索する



7-③. カメラを登録する

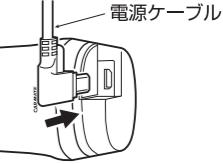


スマートフォンのスリープ状態などで接続が途切れた場合は、手順7-②に戻り、一度「Wi-Fi」を OFF にしてから再度 ON にして接続してください。

= 7 =

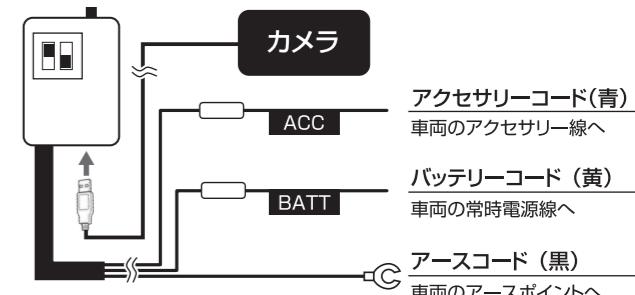
4. 電源ケーブルをカメラに接続する

※専用設計のため、必ず付属のケーブルをご使用ください。



5. 駐車監視ユニットを車両に配線する

<配線概要図>



△注意 常時およびアクセサリーの電源を取る際は、必ずテスターで確認してください。
また、アースは必ず車両のアースポイントでお取りください。

5-①. アースコード（黒）を配線する

車両の金属部分を固定している無塗装のボルトに共締めしてください。

△注意

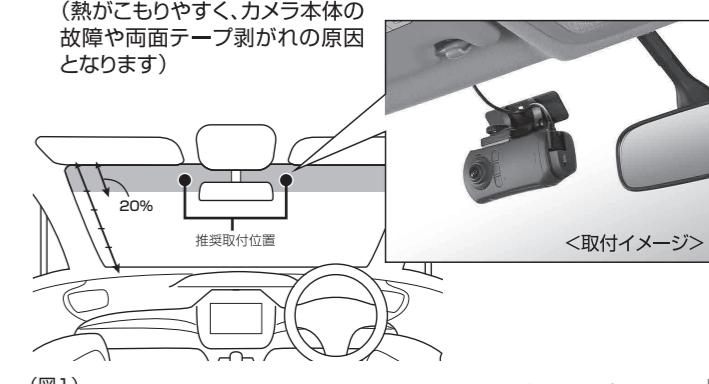
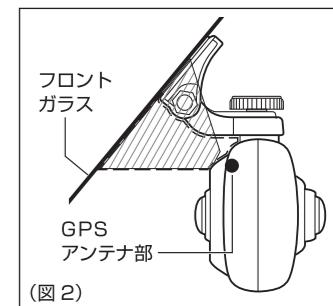
- アースが不完全だと動作不良のおそれがあります。正しく取付けてください。
- オーディオやナビゲーションなど、他の電装品と同じボルトにアースを取り付けてください。機器が誤作動したり、オーディオのメモリーが消失したりするおそれがあります。

= 4 =

8. 取付位置の条件を確認する

下記項目を全て満たすように取付け・取回し位置を確認してください。

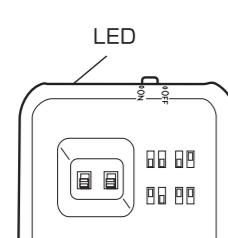
- フロントガラスの上部20%の範囲内に入ること(図1)
- 運転時の視界や操作を妨げないこと
- ルームミラーやエアバッグの動作を妨げないこと
- カメラのレンズがワイパーの拭取り範囲内に入ること
- ガラスにプリントされている熱線やアンテナ、ぼかしなど表面に凹凸がある部分を避けてマウントを貼付すること
- 安全運転支援システムなどのカメラを装着している場合はその映像範囲内に映りこまないこと
- フロントガラスとGPSアンテナ部の間(図2の斜線部)にケーブルや金属物が無いこと
- サンシェード等の日除けを使用する際は、カメラ本体をフロントガラスとサンシェードの間に挟み込まないように設置すること(熱がこもりやすく、カメラ本体の故障や両面テープ剥がれの原因となります)



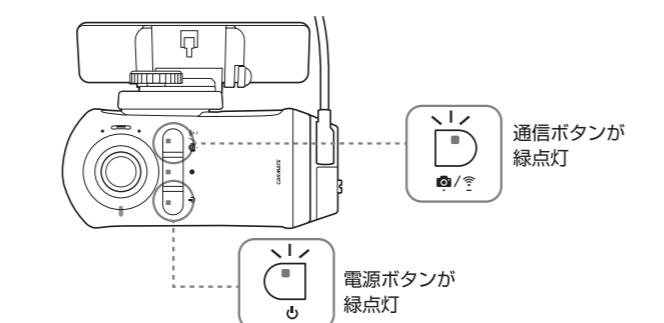
裏面につづく ➔

5-⑥. エンジンをかけ、LED 点灯を確認する

カメラおよび駐車監視ユニットのLEDが点灯することを確認します。



= 5 =



= 6 =

9. 専用アプリを起動し、リアルタイムビュー映像を表示する



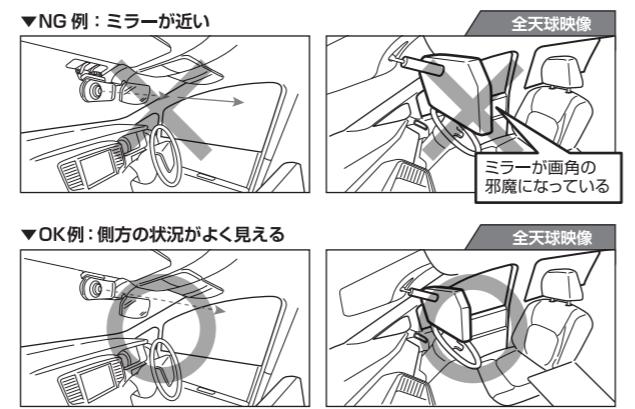
= 9 =

10. 全天球のリアルタイムビュー映像を見ながら、取付位置・振り角度を確認する



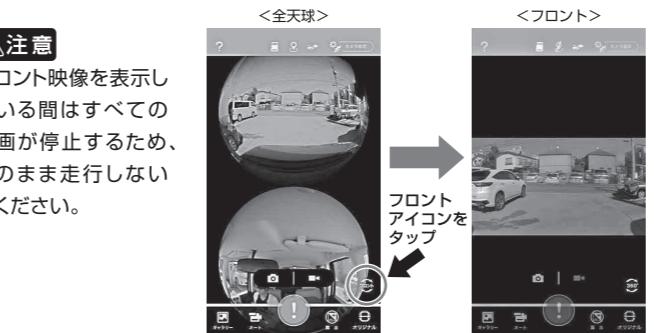
【確認ポイント】

- 画角の妨げになる物の近くに取付けないでください。



= 10 =

11. フロントのリアルタイムビュー映像を見ながら、取付位置・振り角度を確認する



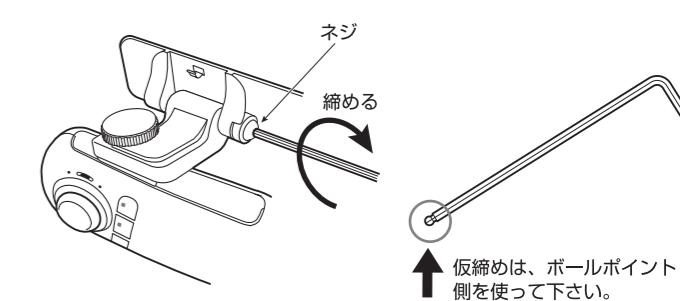
【確認ポイント】

- フロント映像で映っている範囲がクリアに記録される範囲です。クリアに記録したい範囲がフロント映像で映っているか確認してください。



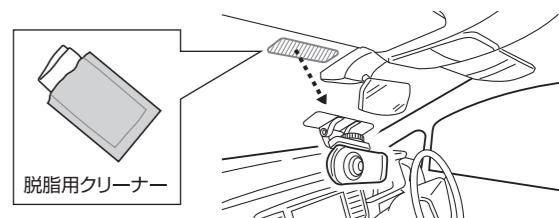
= 11 =

12. 振り角度が決まったら、六角レンチでマウントのネジを仮締めする



13. 貼付面をきれいにする

付属の脱脂用クリーナーを使用してフロントガラスの汚れや油分をよく拭取り、乾燥させてください。



= 12 =

14. マウントを貼付ける

エンジンを切った後カメラをマウントから一旦取り外し、マウントのみをフロントガラスに貼付けます。

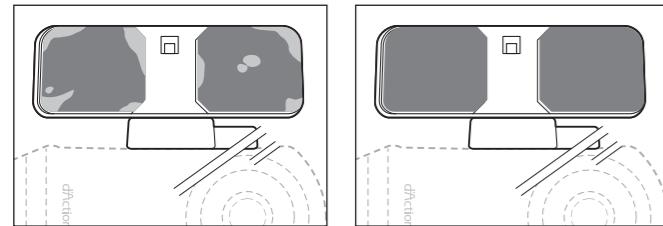
15. マウントをフロントガラスに押付ける

マウントを指で強く押し、両面テープをフロントガラスに密着させます。

△注意

マウントを強く押付けた後、両面テープの貼付け面がフロントガラスに均一して密着しているか、車外から見て確認してください。
貼付け面に圧着ムラがある場合は、再度マウントを強く押して密着させてください。

▼NG例：
圧着ムラや気泡が入っている



※粘着力を安定させるため、24時間以上放置してください。なお、粘着力が低下するため貼直しはできません。

※極端に気温が低い場合、両面テープの粘着が弱くなります。ドライヤーなどで粘着面を温めてから貼付けてください。

※カメラ本体装着前の走行はお控えください。

16. 六角レンチでマウントを本締めする



△注意

マウントの締め付けが弱いとカメラが振動し、衝撃検知が正しく動作しなくなるおそれがあります。

= 13 =

17. 駐車監視ユニット裏側のハクリ紙をはがし、スイッチ操作が可能な場所に確實に貼付ける

△注意

- 貼付面に汚れや油分がある場合、中性洗剤でよく拭取り、水拭きをした後、乾いた布で拭取ってください。
- 駐車監視ユニットは剥がれないように、しっかり取付けてください。脱落により運転を妨げるおそれがあります。
- 以下の条件を満たす場所に取付けてください。
[運転操作を妨げない、エアバッグの動作を妨げない、水滴が容易に付かない、直射日光が当たらない。]
- 粘着力を安定させるため、24時間以上放置してください。なお、粘着力が低下するため貼直しはできません。
- 電波干渉を抑制するため、取付推奨位置に取付けてください。



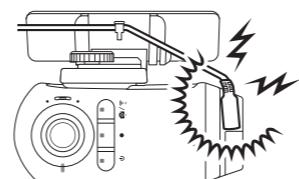
18. カメラをマウントに装着し、電源ケーブルを接続する

マウントフックに電源ケーブルを通し、余裕をもたせた取回しでカメラに接続します。



△注意

- 電源ケーブルやカメラのコネクタ部に無理な力が掛からないように取回してください。カメラが正しく動作しなくなるおそれがあります。



19. 配線し、レンズ部をレンズクロスできれいに拭く

指紋が付いていることが多いので、しっかりと拭取ってください。

= 14 =

MEMO

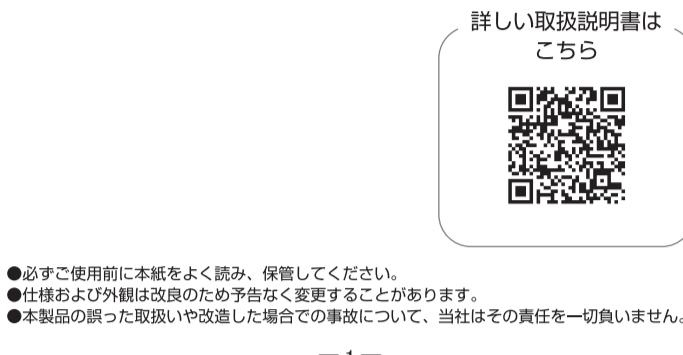
株式会社 カーメイト <http://www.carmate.co.jp/>
〒171-0051 東京都豊島区長崎5-33-11

★商品のお問い合わせは… カーメイトサービスセンター
TEL03-5926-1212(代表) FAX03-5926-1218

= 15 =

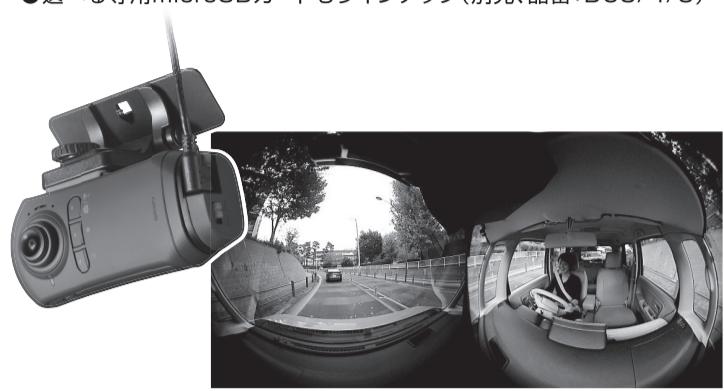
= 16 =

DC5001DT d'Action360^S クイックガイド



●必ず使用前に本紙をよく読み、保管してください。
●仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。
●本製品の誤った取扱いや改造した場合での事故について、当社はその責任を一切負いません。

<1>



<2>

撮り方 [ドライブモード]

車に取付けてドライブレコーダーとして動作するモードです。エンジンをかけると自動で電源がONになります。常時録画を開始します。



<録画種別>

- 常時録画：エンジンをかけてから切るまで録画し続ける
- 衝撃録画：衝撃検知するとその前後を録画する
- 手動録画：●ボタンを押してから再度押すまでを録画する
- 静止画撮影：●ボタンを押すと静止画を1枚撮る

●フォルダの容量が一杯になると、古いデータから順に上書きされます。

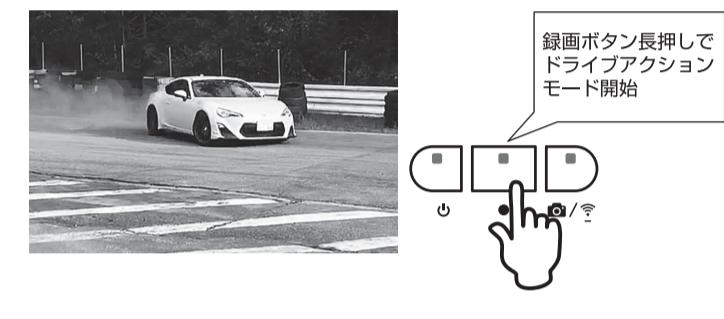
<LEDとボタン>

LED表示	動作
緑点灯：無線 LAN ON 消灯：無線 LAN OFF	ボタン短押し：静止画撮影 ボタン長押し：無線 LAN ON / OFF
緑点灯：常時録画中 赤点灯：衝撃／手動録画中	ボタン短押し：手動録画 ボタン長押し：ドライブアクションモードに切り替え
赤点灯：手動録画中 消灯：何も録画していない	ボタン短押し：手動録画開始／停止 ボタン長押し：ドライブモードに切り替え

<5>

撮り方 [ドライブアクションモード]

車載のビデオカメラとしてサーキット撮影などを楽しむモードです。ドライブモード時に以下の切替え手順を行うと、ドライブアクションモードに切り替わります。



<録画種別>

- 手動録画：●ボタンを押してから再度押すまでを録画する
- 静止画撮影：●ボタンを押すと静止画を1枚撮る

<LEDとボタン>

LED表示	動作
緑点灯：無線 LAN ON 消灯：無線 LAN OFF	ボタン短押し：静止画撮影 ボタン長押し：無線 LAN ON / OFF
赤点灯：手動録画中 消灯：何も録画していない	ボタン短押し：手動録画開始／停止 ボタン長押し：ドライブモードに切り替え

<6>

撮り方 [アクションモード]

*別売のバッテリーオプション(DC101DTT)が必要

車外に持ち出して撮影を楽しむモードです。マウントから取り外し、キャバシタの代わりにバッテリーバックを装着し、電源をONにするとアクションモードで起動します。



<LEDとボタン>

LED表示	動作
緑点灯：無線 LAN ON 消灯：無線 LAN OFF	ボタン短押し：静止画撮影 ボタン長押し：無線 LAN ON / OFF
赤点灯：手動録画中 消灯：何も録画していない	ボタン短押し：手動録画開始／停止 ボタン長押し：ドライブモードに切り替え
緑点灯：電源 ON (残量 50 ~ 100%) オレンジ点灯：電源 ON (残量 20 ~ 49%) 赤点灯：電源 ON (残量 6 ~ 19%) オレンジ点滅：電源 ON (残量 0 ~ 5%) 消灯	ボタン長押し：電源 ON / OFF

<9>

スマートフォンの「Bluetooth」をOFFにする

スマートフォンの設定画面から、「Bluetooth」をOFFにしてください。OFFにしてることで、無線 LAN の接続が安定しやすくなります。



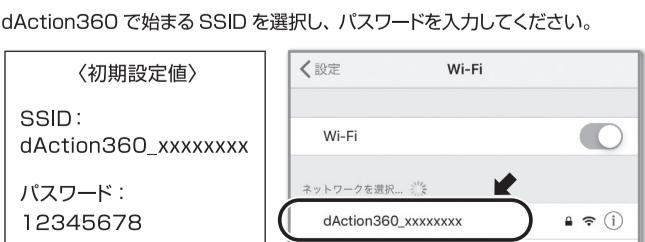
①スマートフォンでカメラを検索する

スマートフォンの設定画面から、「Wi-Fi」をONにしてください。



4. カメラを登録する

dAction360で始まるSSIDを選択し、パスワードを入力してください。



スマートフォンのスリープ状態などで接続が途切れた場合は、手順3に戻り、一度「Wi-Fi」をOFFにしてから再度ONにして接続してください。

<13>

はじめに

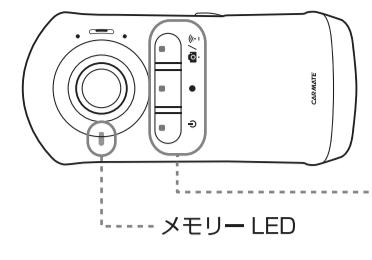
このたびは、d'Action 360 S(以下、本製品という)をお買上いただき誠にありがとうございます。本製品は走行中も駐車中も360度撮影できる、スマートフォン連携の車載カメラです。本書をお読みになった後も、すぐに取出せる場所に保管し、ご使用に分からぬことやトラブルが起きたときにお役立てください。

本製品の特長

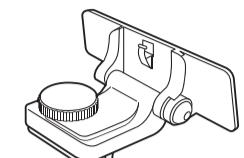
- 360°レンズ2つで全方位を録画
- 全天球録画と同時に、前方方向を高解像度(約200万画素)で記録するデュアルレック機能搭載(特許出願中)
- エンジンOFFでも360°監視する駐車監視機能搭載
- 別売バッテリーオプション(DC101DTT)装着で、車外撮影も楽しめる
- 撮影データはスマートフォンまたはパソコンで再生可能
- 駐車中に衝撃を検知すると光る威嚇LED搭載
- GPS搭載で車速や位置情報を記録
- 選べる専用microSDカードもラインナップ(別売、品番:DC3/4/5)

セット内容

●カメラ本体



●マウント



●電源ケーブル (4m)



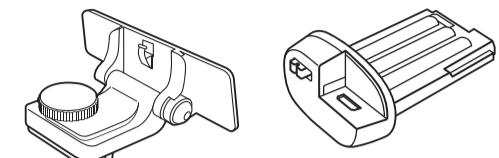
●通信ケーブル (0.3m)



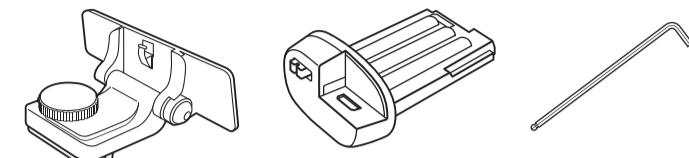
●フタ

※アクションモード(別売のバッテリー)オプションが必要で使う際に使用します。

●キャバシタ



●六角レンチ



●ステッカー



●レンズクロス



●脱脂用クリーナー



●ケーブルクリップ(3個)

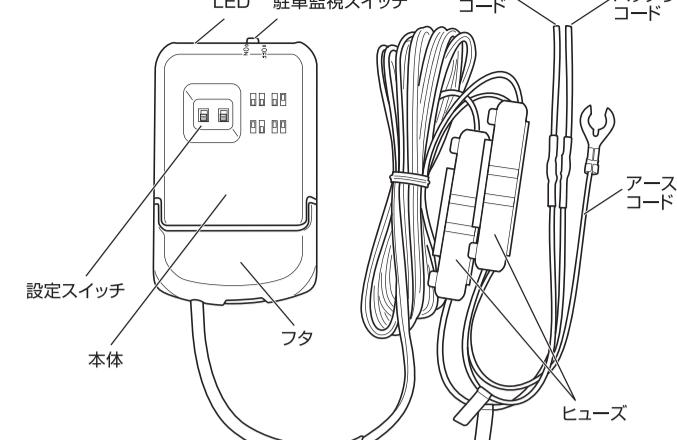


●ファンタッチコネクター 大1個、中(赤)2個、小(白)1個



●クイックガイド(本紙)・安全にお使いいただくために

●駐車監視ユニット



スマートフォン専用アプリ(無料)は[こちら](#)



<4>

撮り方 [駐車監視モード]

①待機

ドライバーが降車する際の振動で録画することを防ぐために、エンジンを切ってから1分間は衝撃を検知しません。

②常時録画モード

駐車常時録画と駐車衝撃録画(前後)を行うモードです。

③前後録画モード

駐車衝撃録画(前後)のみを行うモードです。

④後録画モード

駐車衝撃録画(後)のみを行うモードです。

最大2週間動作し、その後カメラの電源はOFFになります。

車両バッテリーに負荷をかけないよう、②と③のモードをスキップすることができます。スマートフォンの専用アプリで、カメラ設定>駐車監視モードの「録画モード変更」から変更を行ってください。

録画種別

●駐車常時録画 :

エンジンを切ってから最大30分間録画し続ける

●駐車衝撃録画(前後) :

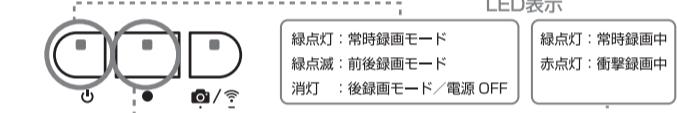
駐車中に衝撃検知するとその前後を録画する

●駐車衝撃録画(後) :

駐車中に衝撃検知するとその後を録画する

●フォルダの容量が一杯になると、古いデータから順に上書きされます。

LEDとボタン



<8>

映像の確認方法

撮影した映像は、スマートフォンまたはパソコンからご覧いただけます。

パソコンから

1. microSDカードを挿したまま、カメラとパソコンを通信ケーブルで接続する

※このとき、カメラにバッテリーバックやキャバシタが装着されたままでパソコンに認識されません。必ず外してからパソコンと接続してください。



2. 専用ソフトを起動し、再生したいファイルが入っているフォルダを選択する

専用ソフトは下記WEBサイトよりダウンロードしてください。

<https://daction.carmate.jp/>

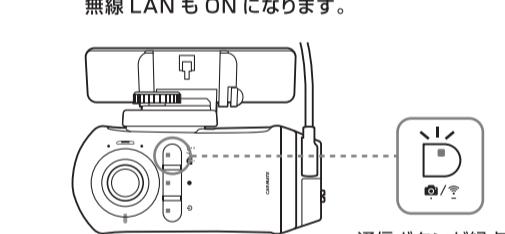
<10>

スマートフォンから

1. カメラの電源を入れ、無線 LAN をONにする

車内で使う場合

エンジンをかけると自動でカメラの電源があり、無線 LAN もONになります。

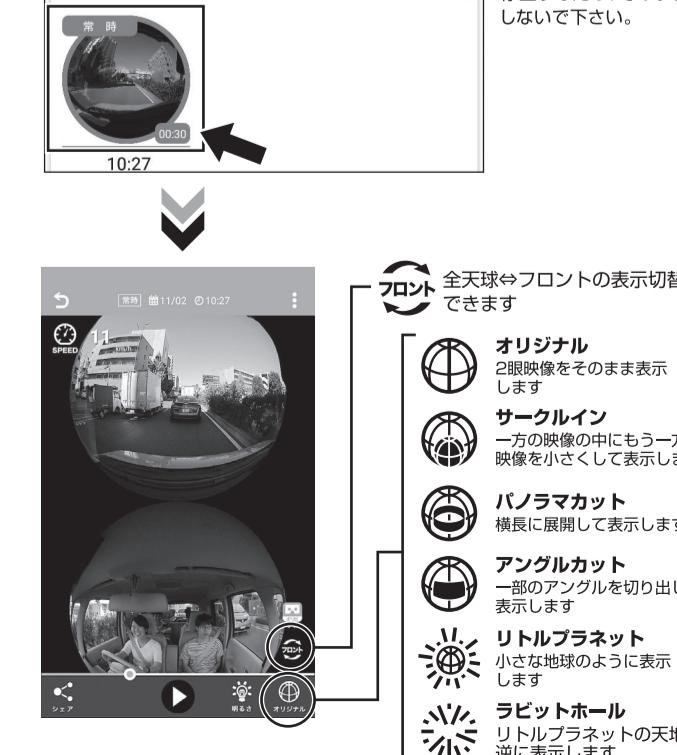
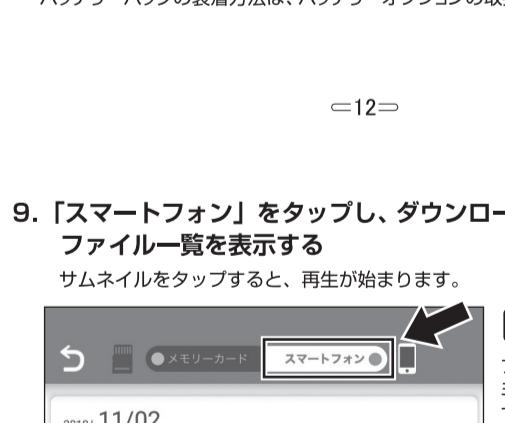


車外で使う場合



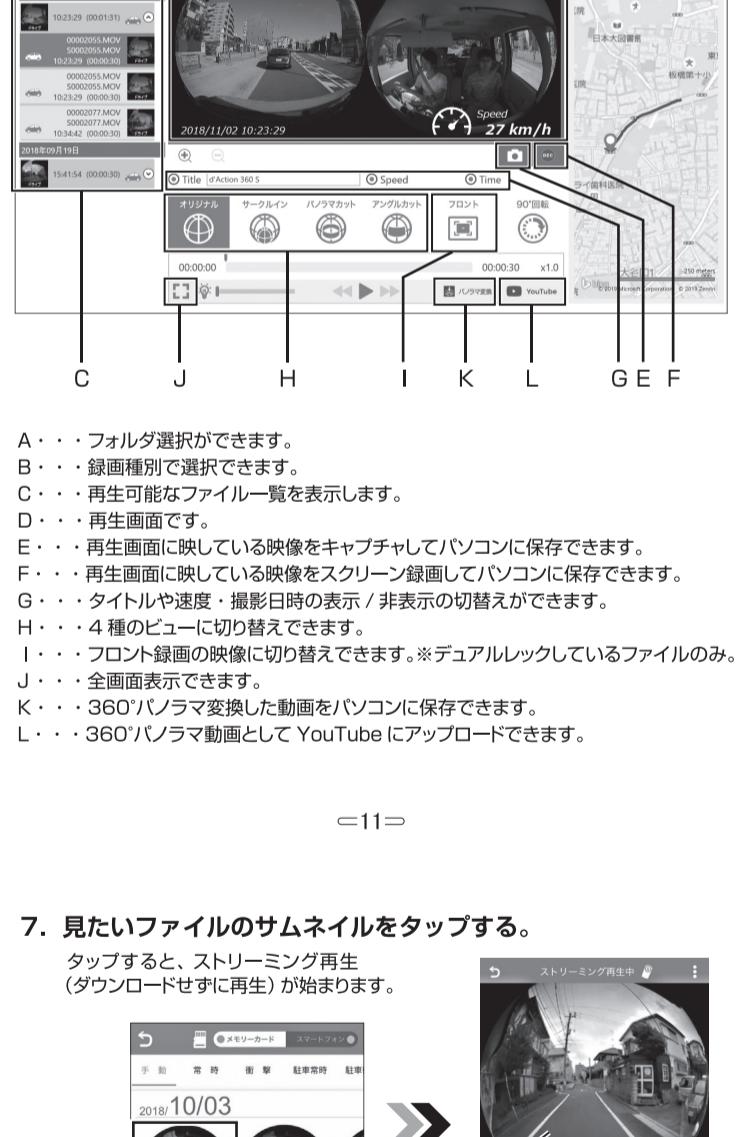
9. 「スマートフォン」をタップし、ダウンロード済みファイル一覧を表示する

サムネイルをタップすると、再生が始まります。



3. 専用アプリの画面に従って、再生したいファイルを選択し、再生する

タップすると、ストリーミング再生(ダウンロードせずに再生)が始まります。



4. ダウンロードしたいファイルが見つかったら、画面左下の[!ボタン]をタップする

電圧監視機能

車両のバッテリー上がりを防止するため、車両バッテリーの電圧値が設定値より約15分間連続して下回った場合に、車両バッテリーからの電源供給を停止し、動作を停止する機能です。下記の手順で設定してください。

1. 車のエンジンを切る

2. 本体の設定スイッチを設定する



電圧	11.8V (23.6V)	12.0V (24.0V)	12.2V (24.4V)	★12.4V (*24.8V)
★: 初期設定値				

一般的な車両の場合、推奨設定値は12.0V(24.0V)です。ただし下記のような場合には、車両バッテリーが弱っている可能性があります。その場合は、車両バッテリーの交換をおすすめします。

- バッテリーの使用年数が長い
- 長期間エンジンをかけていない
- 多くの電装品が装着されている
- 寒冷地で使用している

3. エンジンをかけ、30秒ほどしたら再度エンジンを切る。

カメラが駐車監視モードで作動していたら、設定完了です。

=17=

=18=

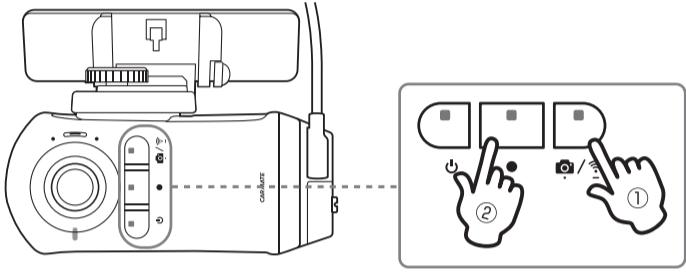
=19=

=20=

リセット方法

すべての設定値が初期化されます。

ドライブ／ドライブアクション／アクションモードでカメラを起動し、 / ボタンを押しながら①から②ボタンを5回短押ししてください。



△注意

リセット操作をすると、すべてのボタンがオレンジ点滅した後にカメラが再起動します。カメラが完全に起動するまでは、電源の切断・ボタン操作・メモリーカードの挿入／取出しは行わないでください。

=21=

2. 専用アプリを起動し、右上の (カメラ設定) ボタンをタップし、設定したい項目をタップする



△注意

メモリーカードをフォーマットすると、すべてのデータが消去されます。必要なデータはあらかじめパソコンなどにバックアップをとっておいてください。

=25=

=26=

=27=

=28=

MEMO

MEMO

MEMO

=29=

=30=

=31=

=32=

駐車監視モードへの切り替え停止

本機能を使用すると駐車監視モードへの切り替えを停止することができます。長時間使用しない場合などにご使用ください。下記の手順で設定してください。

1. エンジンをかける



2. 駐車監視スイッチを OFF にする

駐車監視ユニットの LED が消灯することを確認してください。

3. エンジンを切る（イグニッションを OFF にする）

カメラが動作を停止していることを確認してください。

※駐車監視モードへの自動切り替えを再開する場合は、エンジンをかけてから駐車監視スイッチをONにしてください。

※エンジンをかけた状態で駐車監視ユニットのLEDが点灯していれば、駐車監視モードへ切り替え可能な状態です。

一般的な車両の場合、推奨設定値は12.0V(24.0V)です。

ただし下記のような場合には、車両バッテリーが弱っている可能性があります。

その場合は、車両バッテリーの交換をおすすめします。

- バッテリーの使用年数が長い
- 長期間エンジンをかけていない
- 多くの電装品が装着されている
- 寒冷地で使用している

3. エンジンをかけ、30秒ほどしたら再度エンジンを切る。

カメラが駐車監視モードで作動していたら、設定完了です。

ファームウェアアップデート方法

仕様変更、機能追加などにより、カメラ本体のファームウェアがアップデートされることがあります。スマートフォンまたはパソコンからアップデートしてください。

スマートフォンから

1. 専用アプリを起動し、アップデート通知があるか確認する



2. カメラとスマートフォンを無線 LAN 接続する

※手順は、P12～13をご参照ください。



3. 専用アプリを起動し、通知の「アップデートする」をタップする



4. 「今すぐアップデート」をタップする



=22=

2. 専用アプリを起動し、右上の (カメラ設定) ボタンをタップし、設定したい項目をタップする



△注意

メモリーカードをフォーマットすると、すべてのデータが消去されます。必要なデータはあらかじめパソコンなどにバックアップをとっておいてください。

FAQ

電源が入らない	<ul style="list-style-type: none"> ●電源ケーブルが正しく接続されているか確認してください。 ●付属品以外のケーブルを使うと正常に動作しません。付属の電源ケーブルを使っているか確認してください。 ●駐車監視中の動作温度範囲(-10～+60°C)を超えると、カメラ本体の破壊を防ぐため、動作を停止します。動作温度範囲を超えている場合は、カメラ本体を温度範囲に戻してから再度電源を入れてください。また、サンシェード等の日除けを使用する際は、熱がこもりやすくなるため、カメラ本体をフロングラスとサンシェードの間に挟み込まないように設置してください。 ●駐車監視スイッチがONになっているか確認してください。OFFになっている場合は、一度エンジンをかけ、駐車監視スイッチをONに切り替えてください。 ●駐車監視ユニットのLEDが切れていなければ確認してください。 ●一度カメラ本体からキャバシタを抜き、1分程度経ってから再度差込み、電源をONにしてください。
エンジンをかけているのに、電源が切れる	<ul style="list-style-type: none"> ●アースの取付けを確認してください。アースボルトが塗装されている、またはボルトと端子の間に樹脂などで接着されていると正しく電源供給できません。また、オーディオやナビゲーションなどの他の電装品と同じボルトにアース取付すると、機器が誤作動したり、オーディオ等のメモリーが消失するおそれがあります。
記録される時刻がおかしい	<ul style="list-style-type: none"> ●各フォルダおよびファイルの作成日時、更新日時は世界標準時刻で記録されます。専用アプリで再生すると、再生端末で設定されたタイムゾーンの日時で表示されます。
スマートフォンで「インターネットがみつかりません」と表示される	<ul style="list-style-type: none"> ●カメラがインターネット接続機能を持っていないため、表示されます。(Android端末などで一部の端末では、カメラ接続中は、スマートフォンでインターネットに接続できません)

リアルタイムビューの確認方法

カメラのリアルタイムビュー映像を、スマートフォンから確認できます。

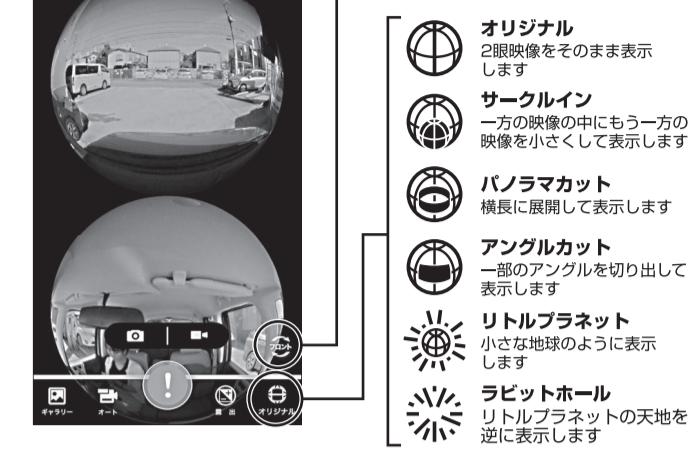
1. カメラとスマートフォンを無線 LAN 接続する

※手順は、P12～13をご参照ください。



2. 専用アプリを起動する

フロント 全天球 ⇔ フロントの表示切替ができます



△注意 フロント映像を表示している間はすべての録画が停止するため、そのまま走行しないでください。

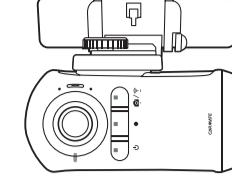
=19=

カメラの設定変更方法

衝突検知度など、カメラの設定をスマートフォンから変更できます。

1. カメラとスマートフォンを無線 LAN 接続する

※手順は、P12～13をご参照ください。



2. 専用アプリを起動し、右上の (カメラ設定) ボタンをタップし、設定したい項目をタップする



△注意 カメラ設定画面においてはすべての録画が停止するため、そのまま走行しないでください。

=20=

MEMO

MEMO

MEMO

=26=

=27=

=28=

FAQ

スマートフォンで「dAction360」から始まるSSIDが表示されない	<ul style="list-style-type: none"> ●カメラ本体の無線LANがON (/ ボタンが緑点灯) しているか確認してください。 ●スマートフォンの「Wi-Fi」を一旦切り、再度ONにしながら少々待ちください。
スマートフォンに接続できない	<ul style="list-style-type: none"> ●スマートフォンの「Bluetooth」がOFFになっているか確認してください。 ●他のスマートフォンと接続されていないか確認してください。 ●専用アプリを一旦終了してからスマートフォンの「Wi-Fi」をOFFにした後、再度ONにして接続を確認してください。それでも接続できない場合は、登録したSSIDを削除し、再度P.12の手順1からやり直してください。 ●駐車監視モードや、パソコンと接続している場合はスマートフォンに接続できません。
エンジンをかけたのに、カメラの無線 LAN が ON にならない	<ul style="list-style-type: none"> ●電源ケーブルが正しく接続されているか確認してください。 ●付属品以外のケーブルを使うと正常に動作しません。付属の電源ケーブルを使ってるか確認してください。
レンズ横のメモリー LED がオレンジ色点滅している	<ul style="list-style-type: none"> ●スマートフォンを接続し、カメラ本体または専用アプリからメモリーカードのフォーマットを行ってください。 (→P.24、25参考) ●それでも直らない場合、カメラをリセットしてください。 (→P.21参考)
「SDカードを確認してください」という音声が流れた	<ul style="list-style-type: none"> ●読み書き速度の遅い規格のメモリーカードが差込まれているか、規格表示の無いメモリーカードが差込まれています。専用microSDカード(DC3/4/5)をご使用ください。

「SDカードが見つかりません」という音声が流れた	<ul style="list-style-type: none"> ●メモリーカードが挿入されているか確認してください。 ●メモリーカードが破損している場合は、メモリーカードを交換してください。
「容量が一杯です」という音声が流れた	<ul style="list-style-type: none"> ●カードフルエラーです。メモリーカード内の手動録画ファイルまたは静止画撮影ファイルを削除するか、メモリーカードをフォーマットしてください。
「フォーマットしてください」という音声が流れた	<ul style="list-style-type: none"> ●フォーマット推奨期間が経過しました。カメラ本体またはスマートフォンアプリからメモリーカードのフォーマットを行ってください。 (→P.24、25参考) なお推奨期間はエンジンの始動回数と走行距離の累積からカウントされる仕様になっております。
カメラの振り角度を変えたい	<ul style="list-style-type: none"> ●付属の六角レンチでマウントのネジをゆるめ、振り角度を調整してください。調整後に本締めるときは、六角柱側(短い側)を使ってください。